

株式会社 ピクセラ
2004年3月 中間期決算説明資料



2004年5月

決算概要及び通期見通し





2004年3月中間期の決算概況

(単位: 百万円、%)

	2004/3中間期 実績			2004/3中間期 期初計画	2003/3中間期 実績
	金額 構成比	計画比	前期比	金額 構成比	金額 構成比
売上高	3,280 100.0	128.2	183.7	2,559 100.0	1,785 100.0
売上総利益	1,074 32.8	112.2	161.2	957 37.4	666 37.4
営業利益	470 14.3	98.1	157.9	479 18.7	297 16.6
経常利益	452 13.8	101.8	199.4	444 17.3	226 12.6
中間純利益	258 7.9	97.4	113.9	265 10.4	226 12.7



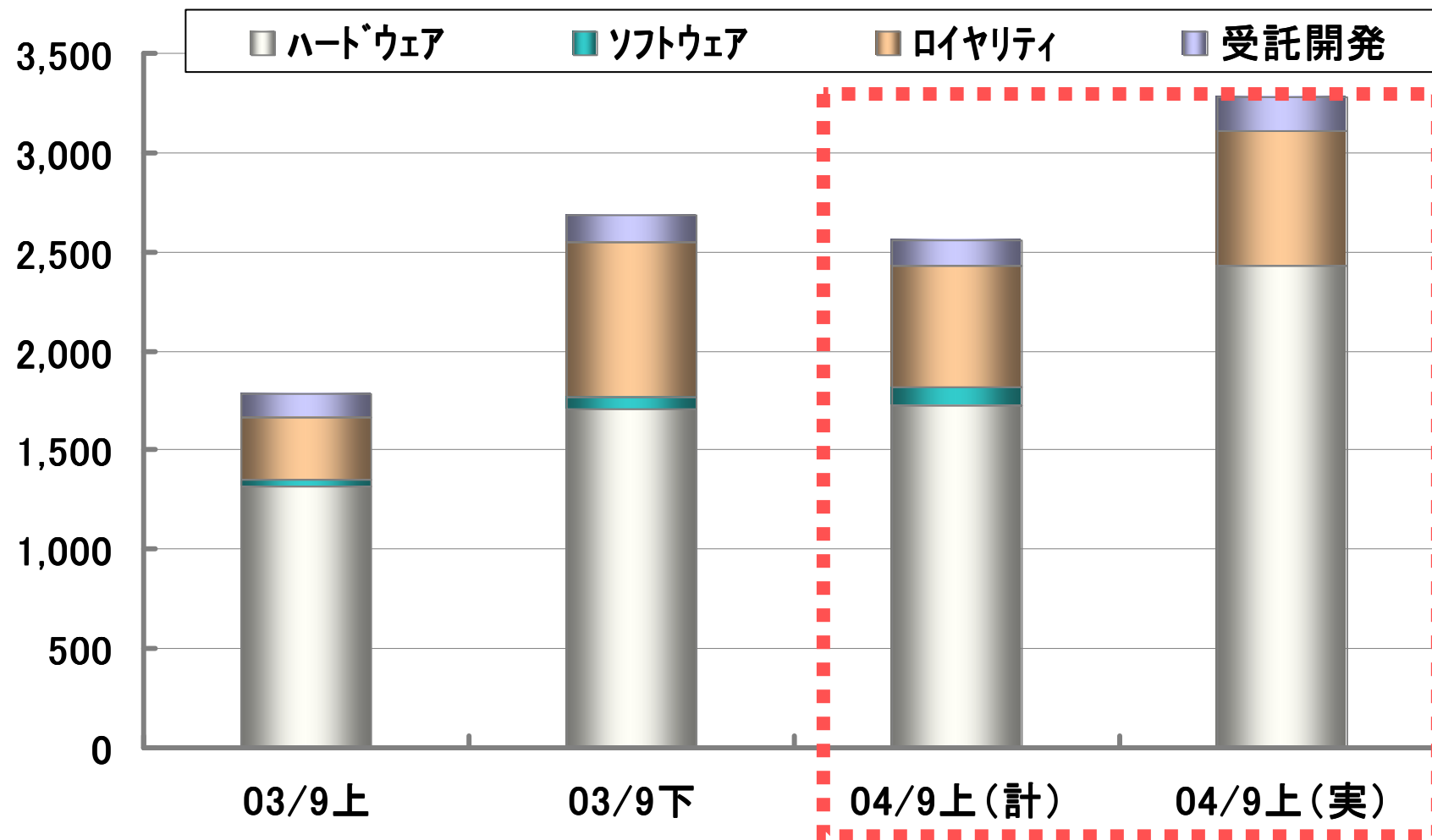
2004年3月 中間期業績のポイント

- ハードOEM、ロイヤリティの売上好調
 - ・供給先の製品販売好調
- 開発投資の増加
 - ・製品バージョンアップ
 - ・半導体組込ソフト開発



品目別売上高の状況

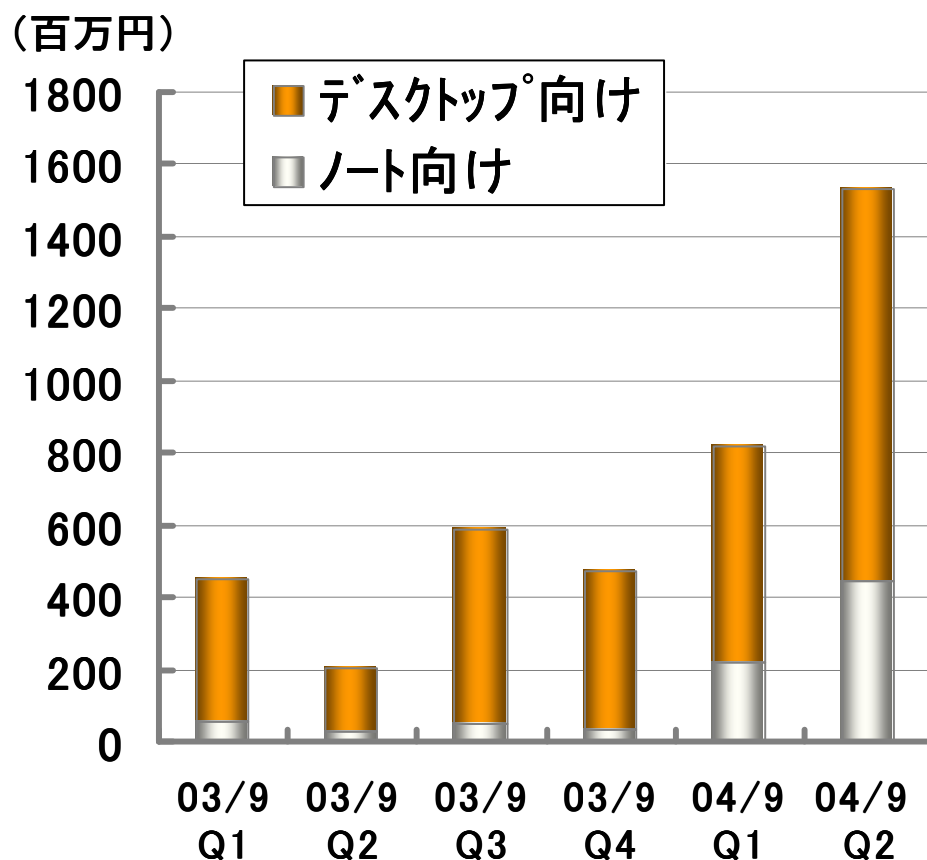
(百万円)





ハードウェア製品

【ハード**OEM**の四半期毎の売上高】



◆ OEM

- 供給先の出荷増と搭載率の向上
 - ・ デスクトップはコンシューマー向けには80%以上に搭載
 - ・ ノートへの搭載率向上
- 供給先の拡大
 - ・ デルへの供給本格化

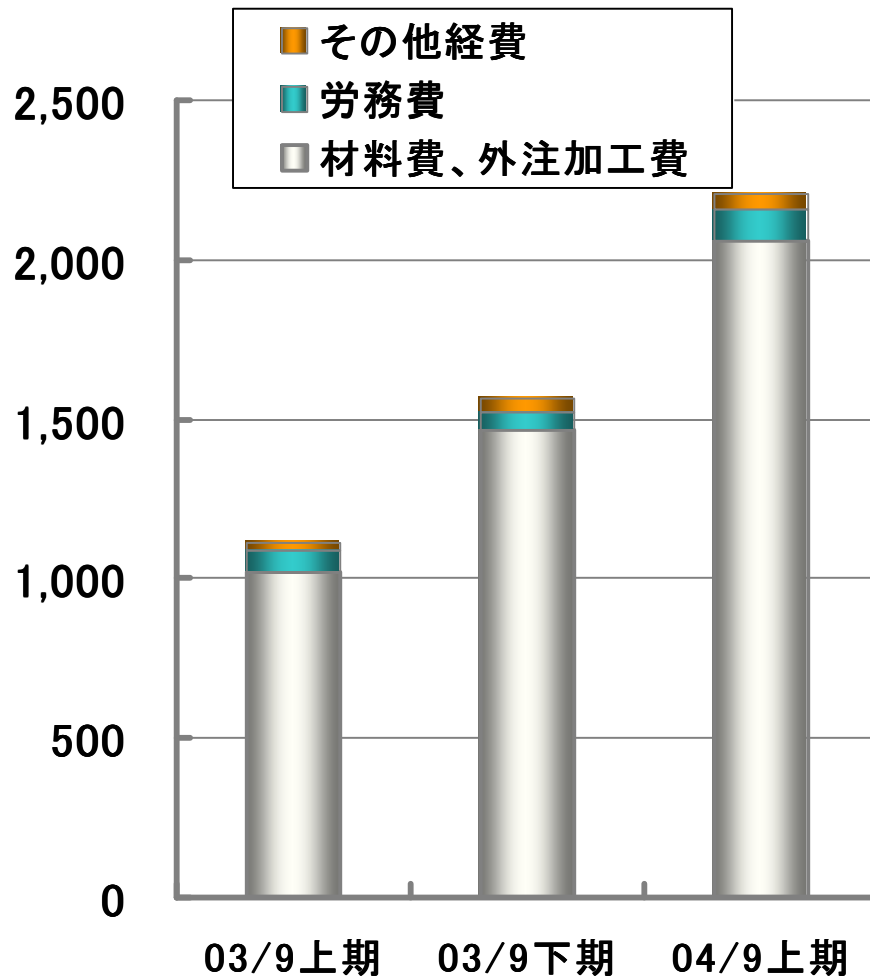
◆ 自社ブランド

- 1stQはOEM向けに転用
→ 出荷を抑制



原価の状況

【原価】



◆ 材料費、外注加工費

- デジタルラジオ試作で材料・外注費加工費増加

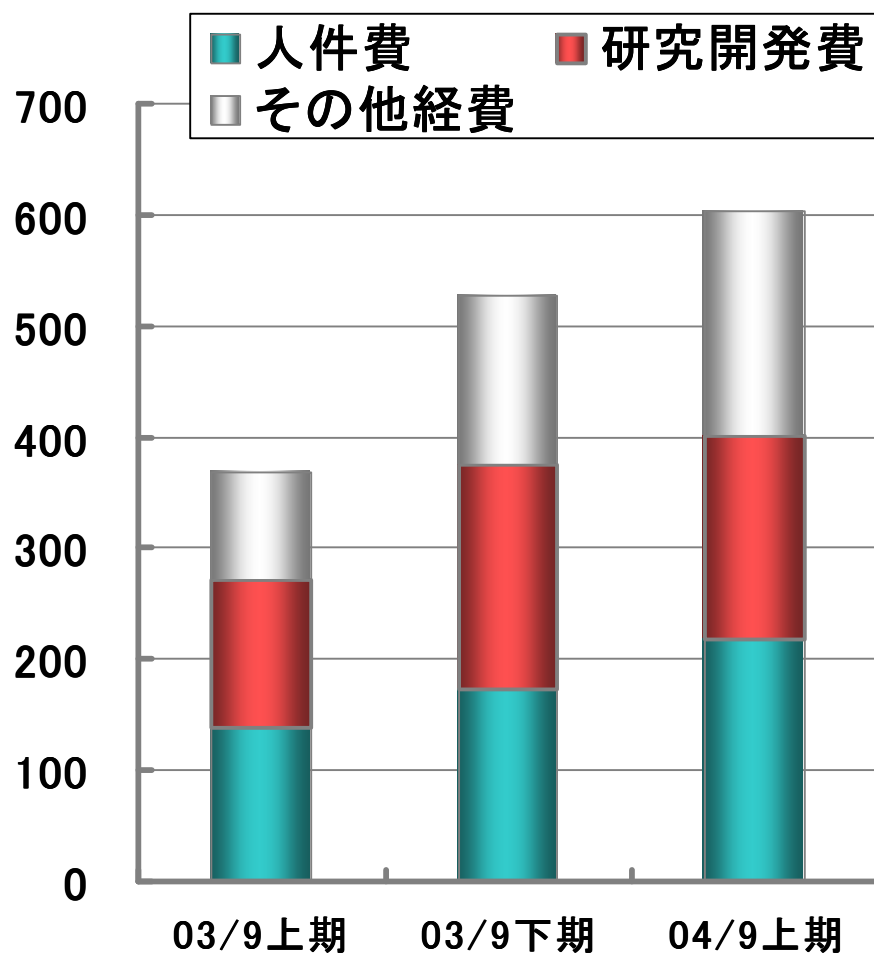
◆ 労務費

- 人員増
- 製品開発費増加



販管費の状況

【販管費】



◆ 人員の増加

- 営業人員増
- 品質向上のため管理部門の人員増強
- 半導体設計
⇒ 研究開発増

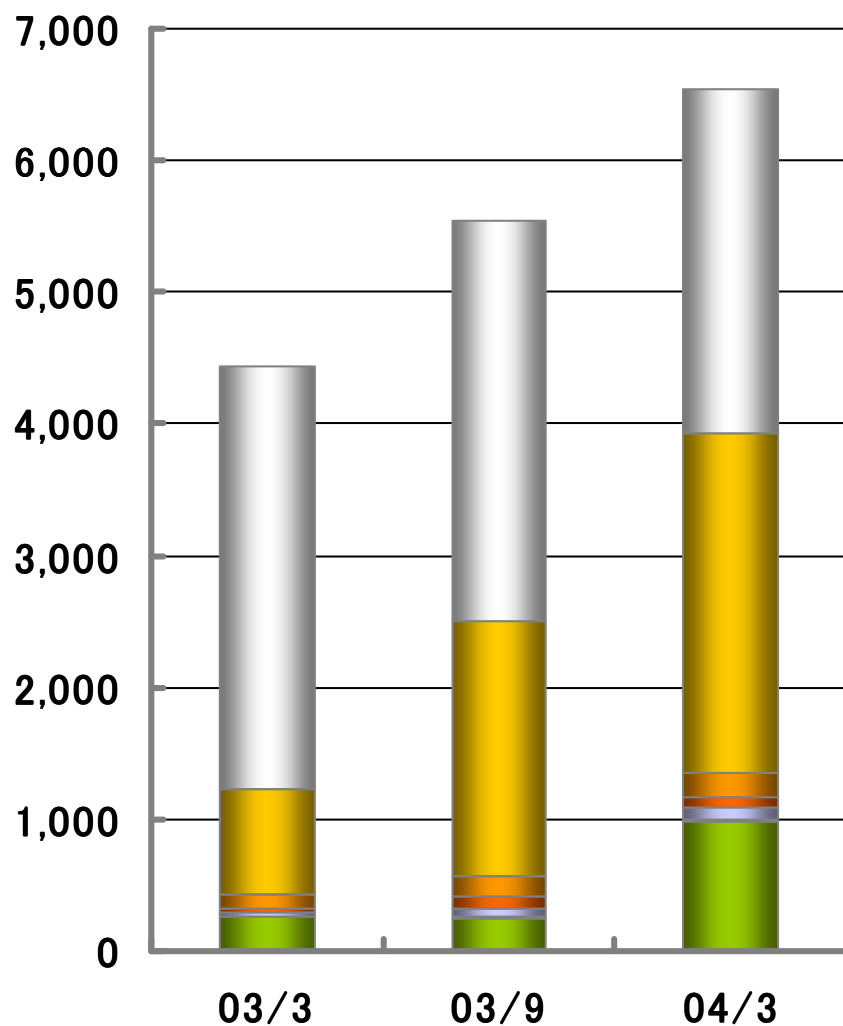
◆ その他経費

- 本社移転
- 人員増に伴う備品購入



財政状況：資産の部

(百万円)

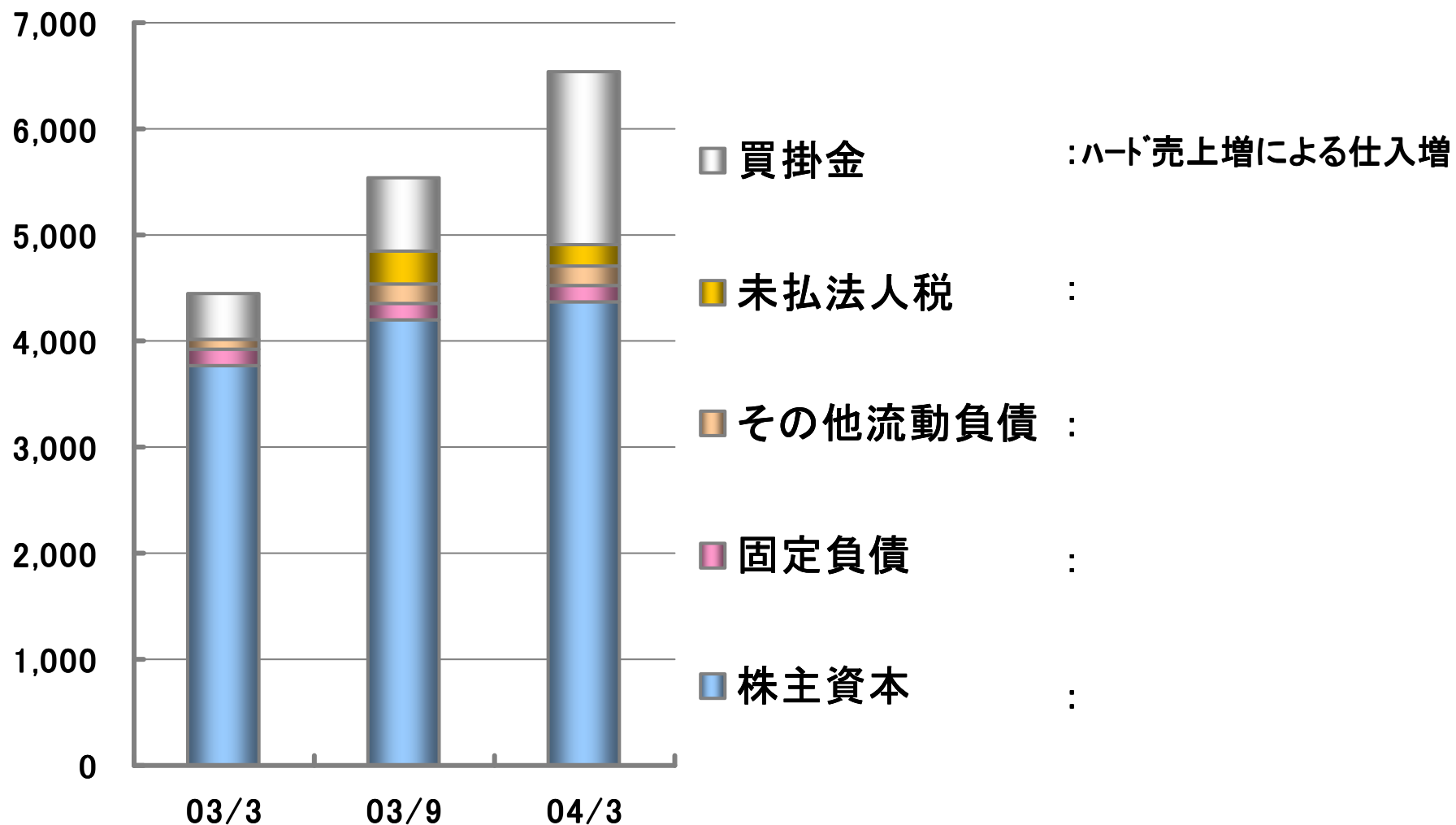


- 現預金 :
- 売掛金等 : 第2四半期の売上増加
- たな卸資産 :
- その他流動資産 :
- 有形固定資産 :
- 無形固定資産 : 半導体設計ソフト
- 投資その他 : RFStream設立、研究開発資産取得資金貸付



(百万円)

財政状況：負債、資本の部





通期の見通し

(単位:百万円、%)

	2004/9期 修正計画			2004/9期 期初計画	2003/9期 実績
	金額 構成比	計画比	前期比	金額 構成比	金額 構成比
売上高	7,711 100.0	139.2	172.5	5,539 100.0	4,469 100.0
売上総利益	2,413 31.3	109.0	133.3	2,213 40.0	1,809 40.5
営業利益	1,103 14.3	99.9	121.0	1,104 19.9	911 20.4
経常利益	1,015 13.2	99.7	123.0	1,018 18.4	825 18.5
当期純利益	605 7.8	100.2	91.8	604 10.9	659 14.8



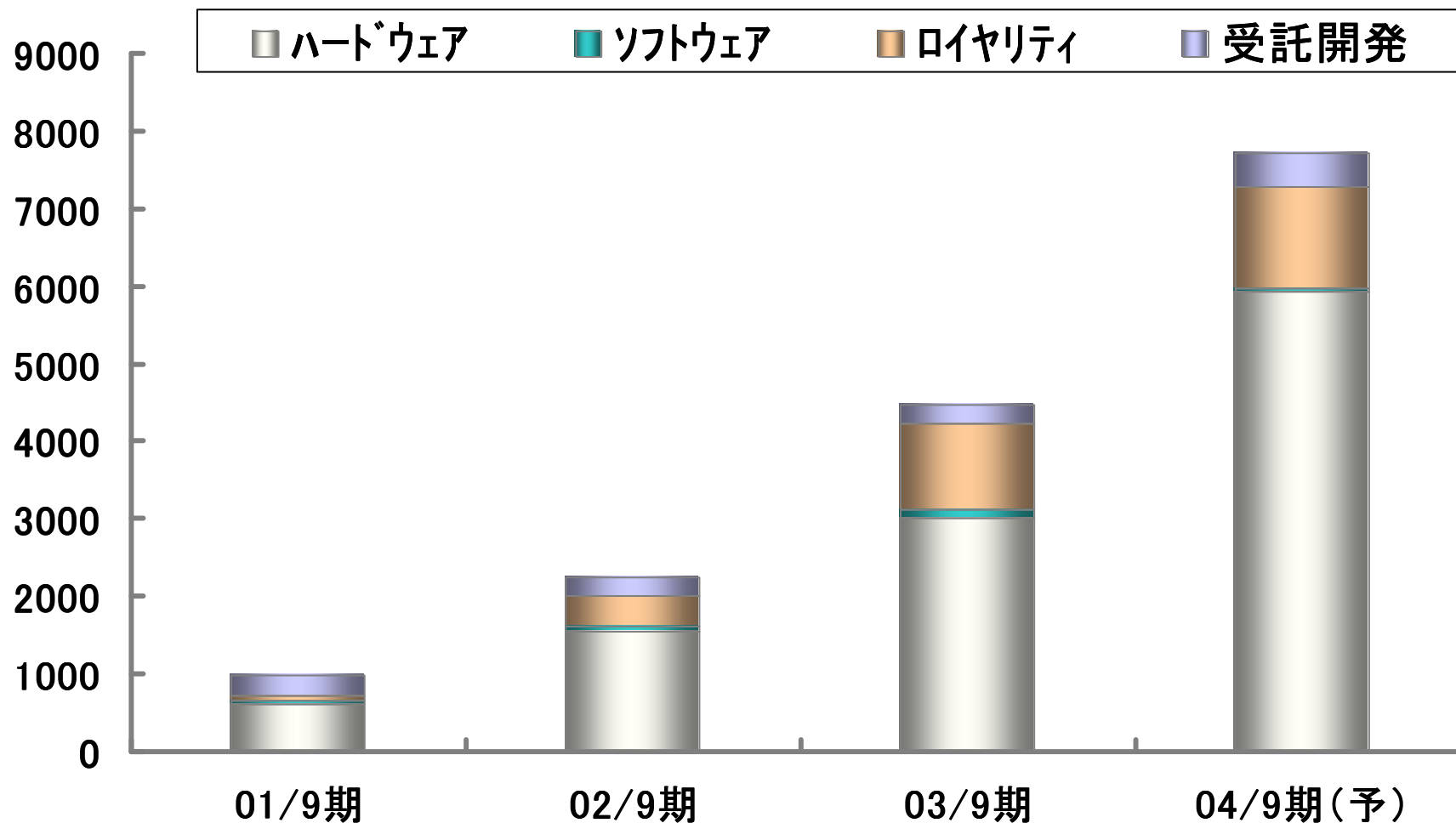
2004年9月期業績のポイント

- ハードウェアOEMの伸長
ノートPCへの搭載拡大
- ロイヤリティ製品
デジカメの数量増加
供給先の拡大
- 新ビジネスの立ち上げ
デジタルラジオ専用機
RFStreamによるICチューナー



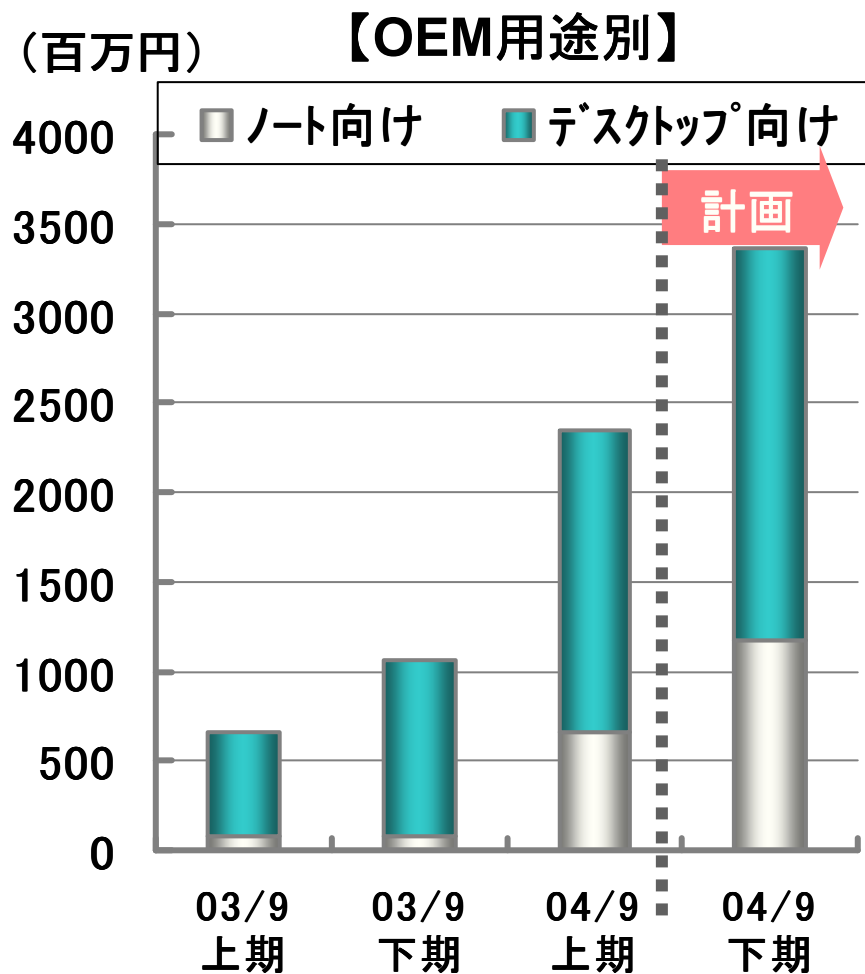
品目別売上高の見通し

(百万円)





ハードウェア売上高の見通し



◆ OEM向けの対応強化

- 夏モデル (3rdQ)
- ノートPCへの搭載拡大

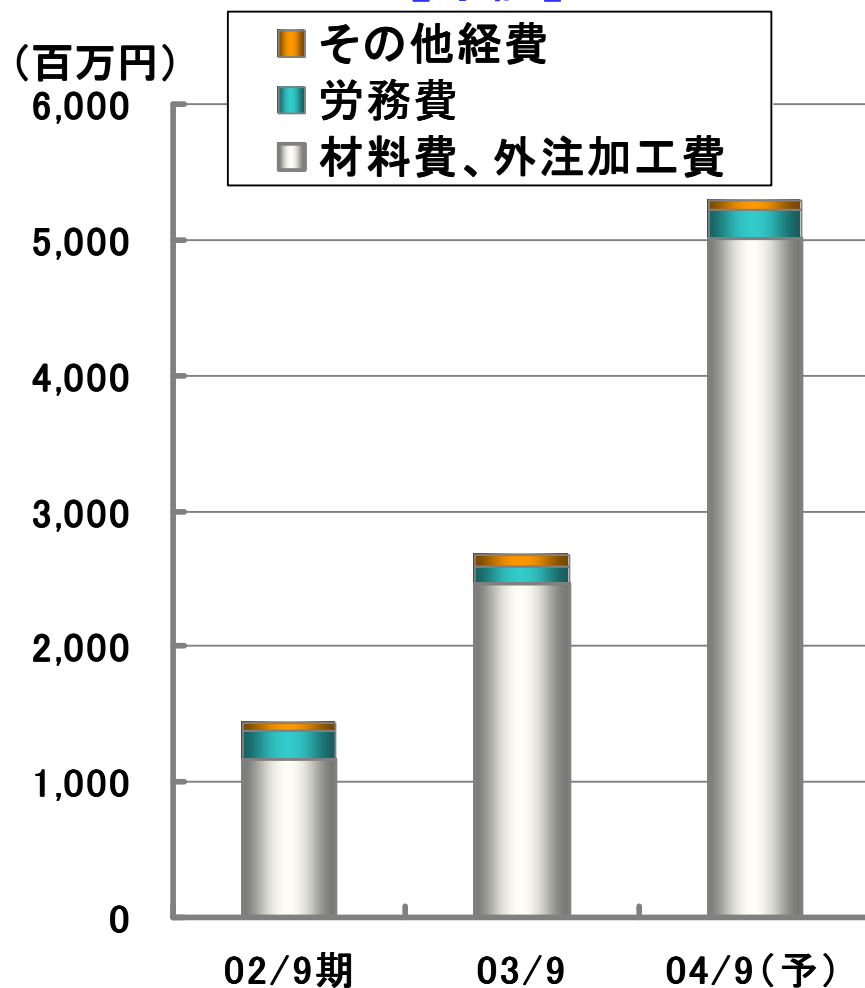
◆ 自社ブランド

- DV/USBビデオストリームクラス
タ対応チップの供給開始

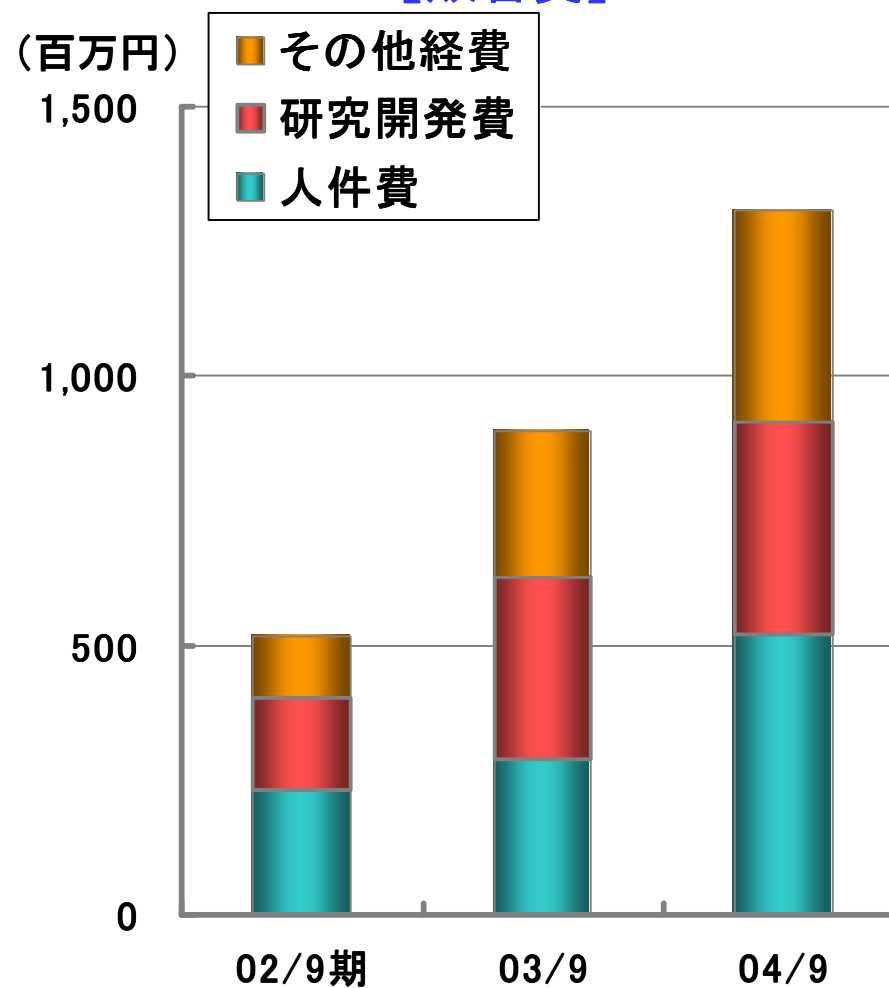


原価、販管費の見通し

【原価】

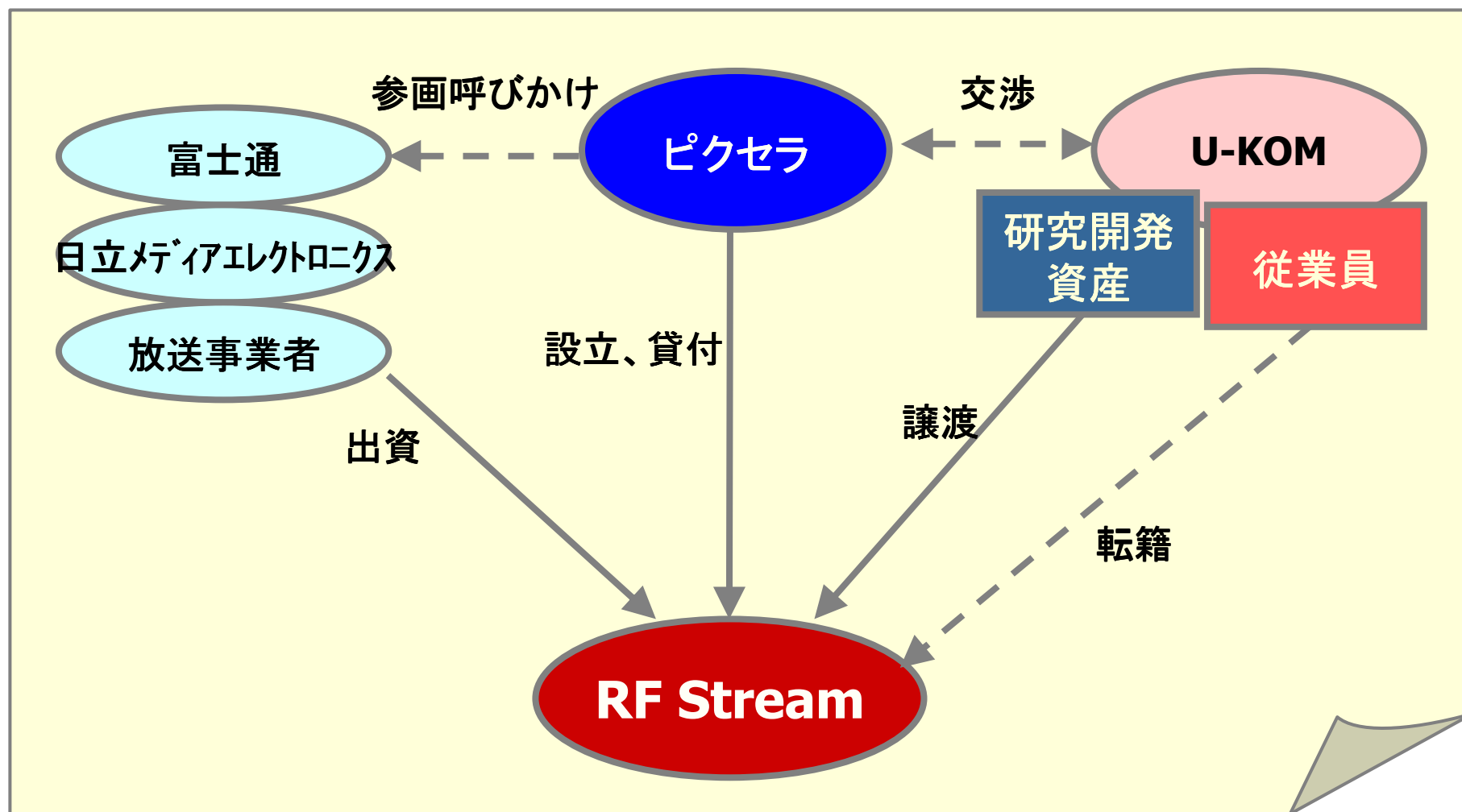


【販管費】





*RF Stream*の設立について





RFStreamの概要

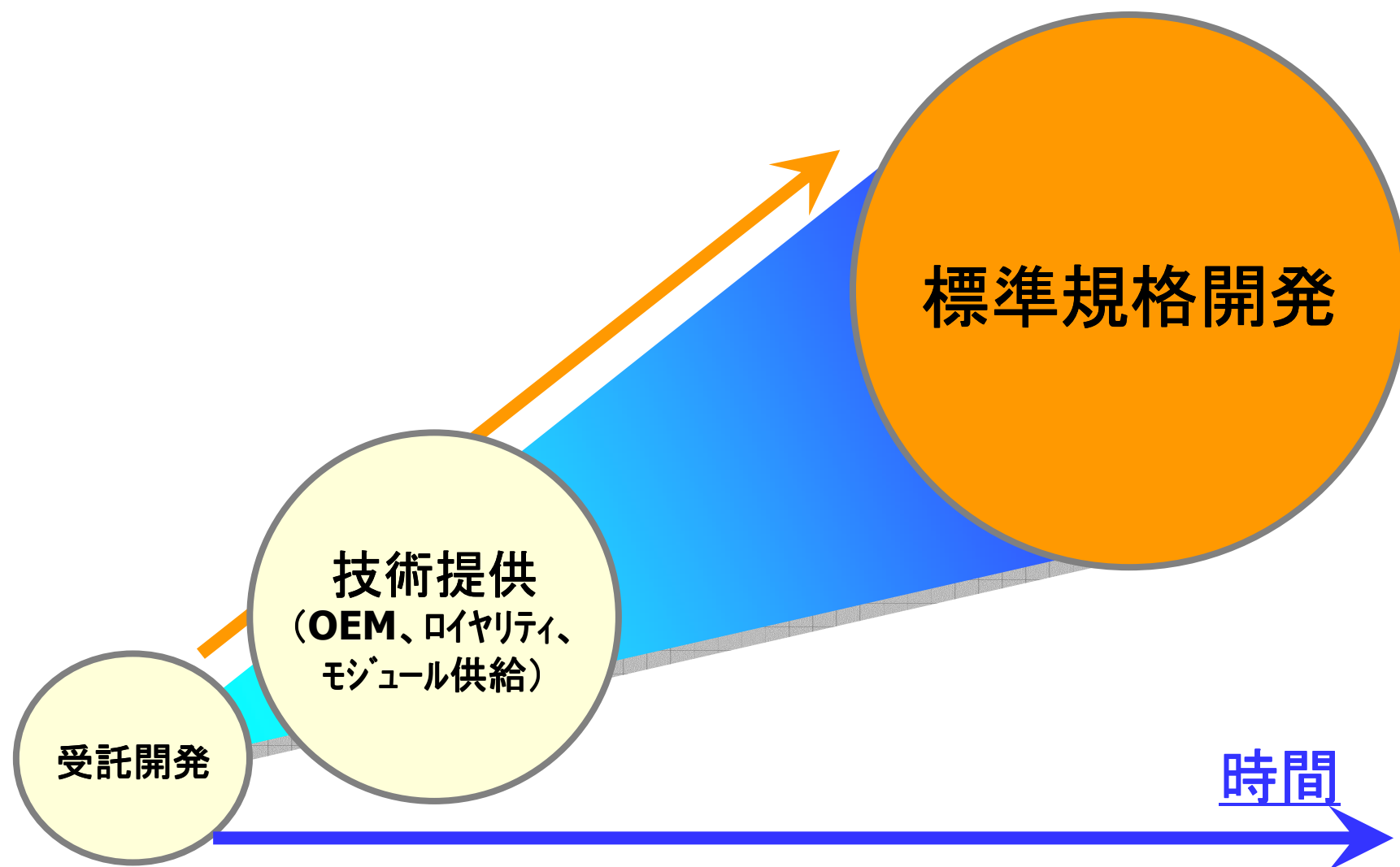
- ◆ 設立： 2004年3月10日
- ◆ 社長／最高経営責任者(CEO)
 - 栗原 良和 (ピクセラ COO)
- ◆ 所在地：
 - 本社： 大阪
 - ・ 新横浜事業所
 - 米国支社： シリコンバレー (San Jose)
- ◆ 株主
 - ピクセラ、富士通、日立メディアエレクトロニクス、紀陽銀行、紀陽リース・キャピタル、放送事業者
- ◆ 従業員数
 - 本社、米国支社合わせて 14名

今後の経営方針



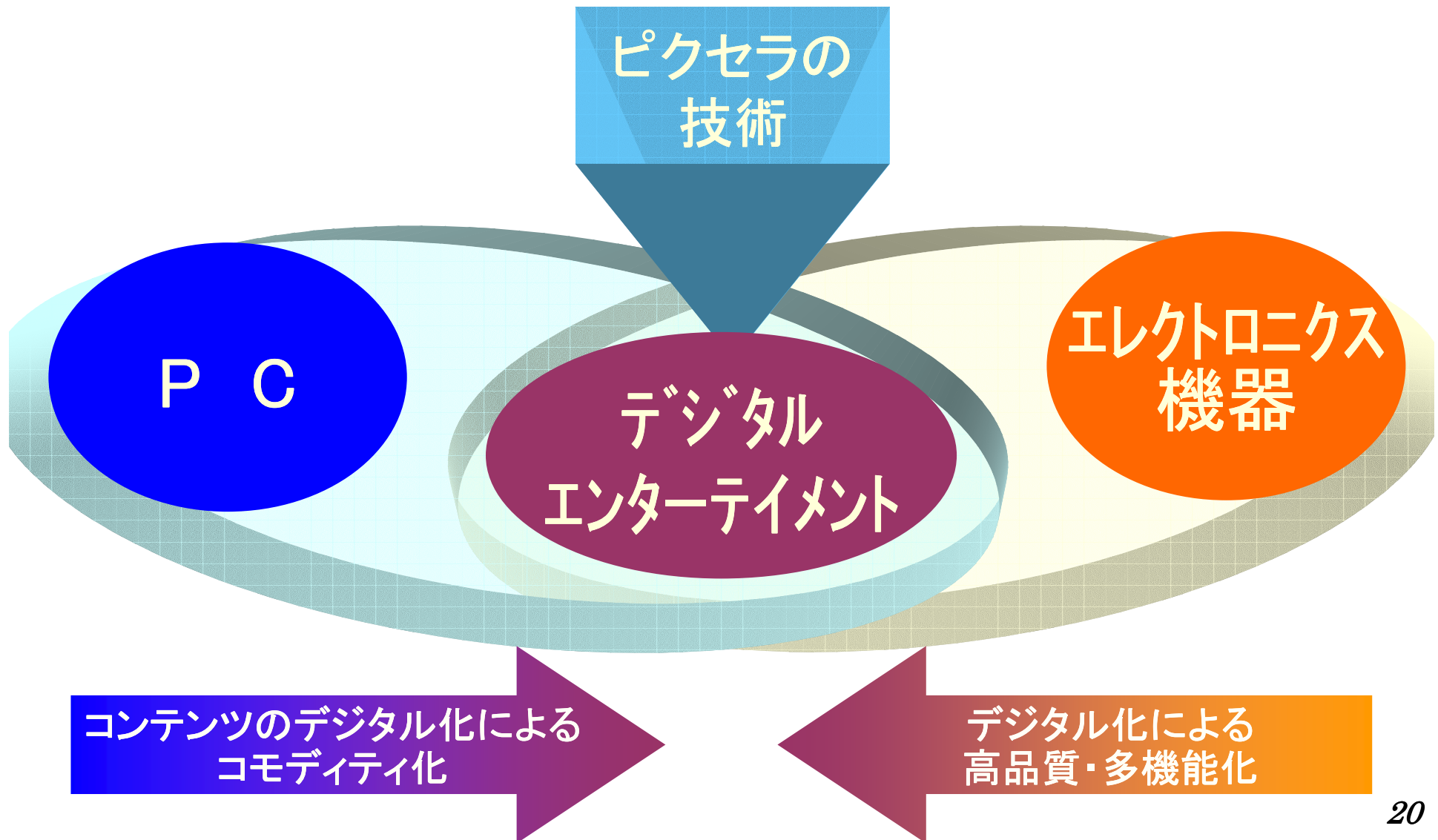


技術による新たな市場の開拓





デジタル・エンターテインメント時代の到来





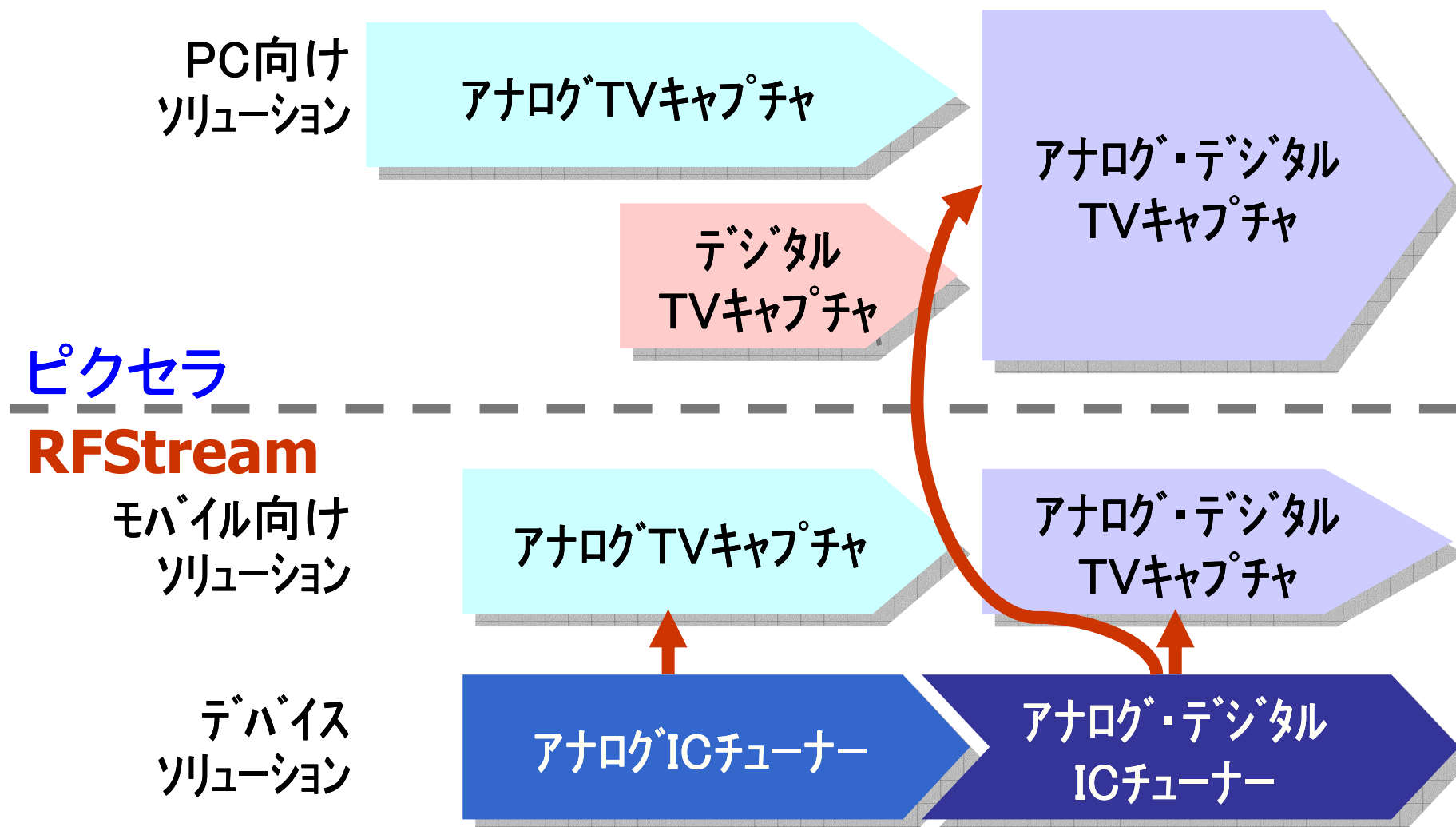
経営基本方針

デジタルAVのキーデバイスの開発
～半導体組込ソフトの開発に注力

- デジタル放送への対応
- モバイル機器への対応
 - ▶ PC以外へのデジタル機器へのソリューション



デジタルエンターテインメントの新しいソリューション





デジタル放送への対応

- デジタルラジオの製品開発
- PC向けデジタル放送対応
TVキャプチャーの開発



デジタルラジオの取り組み

◆PCカード型チューナー試作機リリース(04年1月)

➤NHK、エフエム東京をはじめとするデジタルラジオ推進協会加盟放送局各社向けに供給

- ・NHKふれあい広場で展示、注目を集める(04年5月のGW期間中開催)

◆専用機のリリース(04年秋予定)

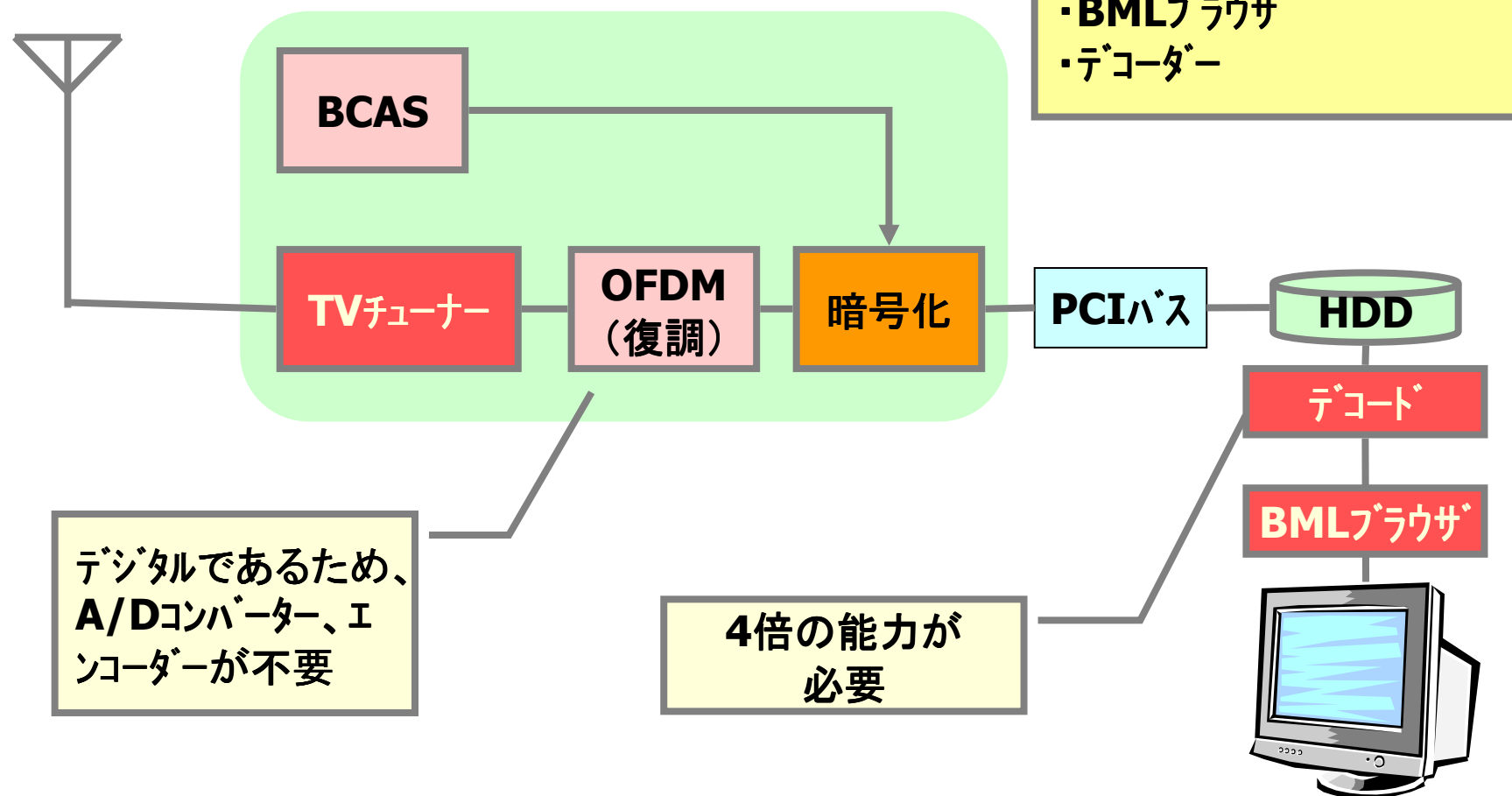


＜NHKふれあい広場にて＞



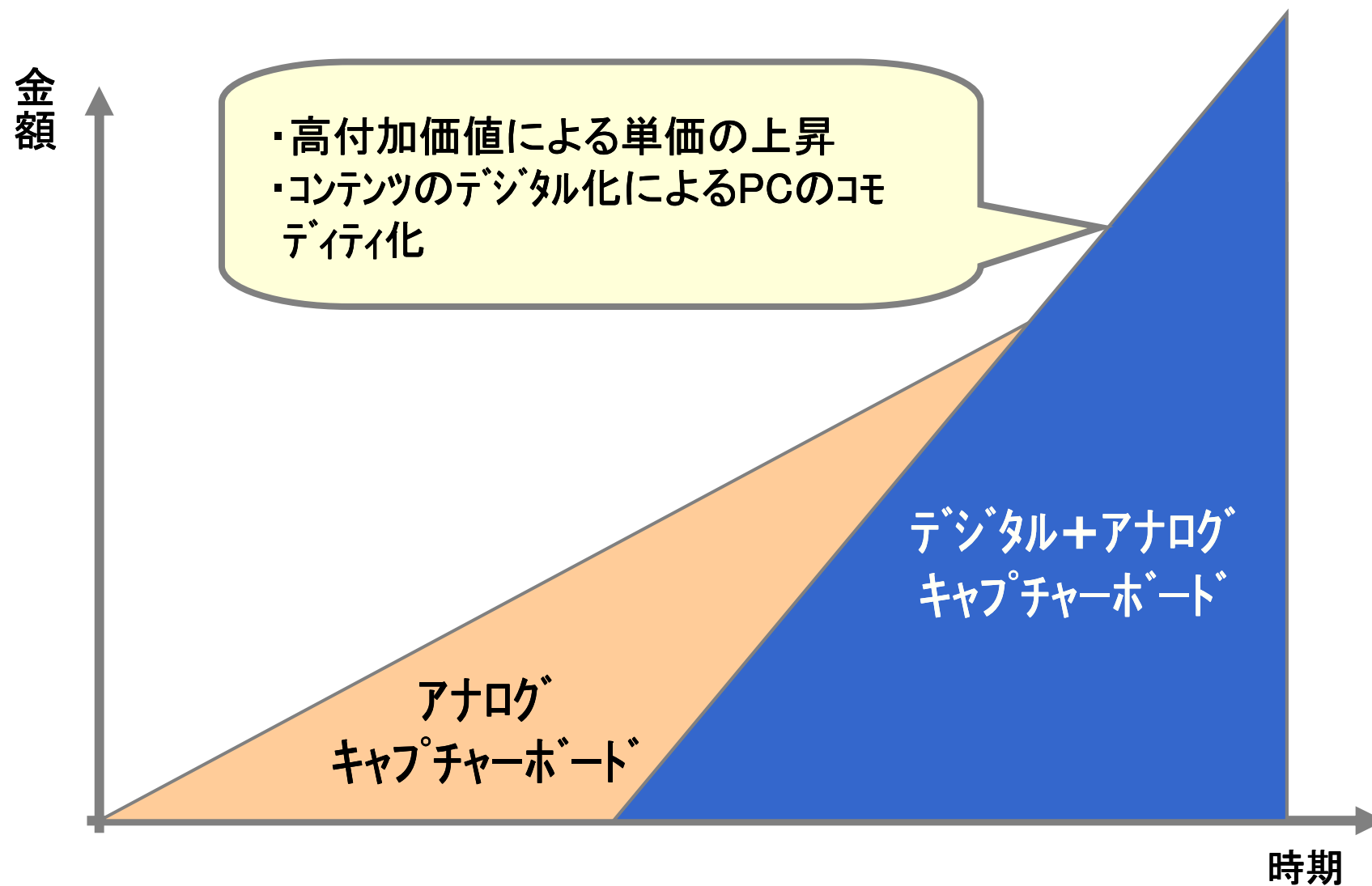
PC向けデジタルTVキャプチャー

◆地上波デジタル対応TVキャプチャーの概要





アナログからデジタルへシフト





*RF Stream*設立について

「新」テレビ時代の到来

◆ テレビを取り巻く環境変化

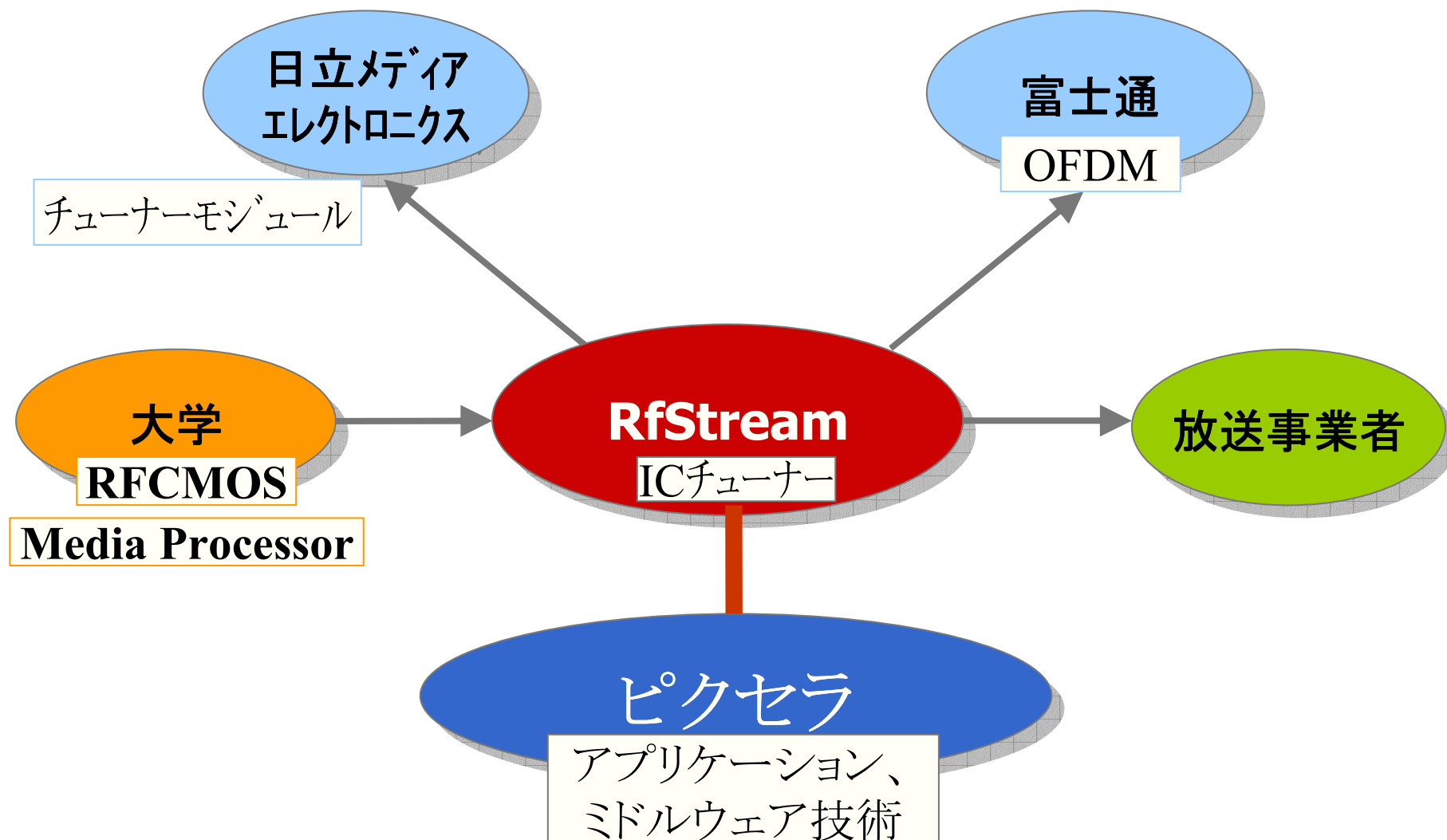
- 薄型平面テレビの急速な普及
- デジタル放送開始
- PC、モバイルでの視聴

◆ それに伴う新しいニーズ

- 小型化・省スペース: 薄型平面TV、モバイル機器
- 低消費電力: モバイル機器
- 多規格対応: アナログ・デジタル対応、ワールドワイドでの対応



*RF Stream*の ビジネスパートナー





TVチューナーのIC化

◆IC化の意義

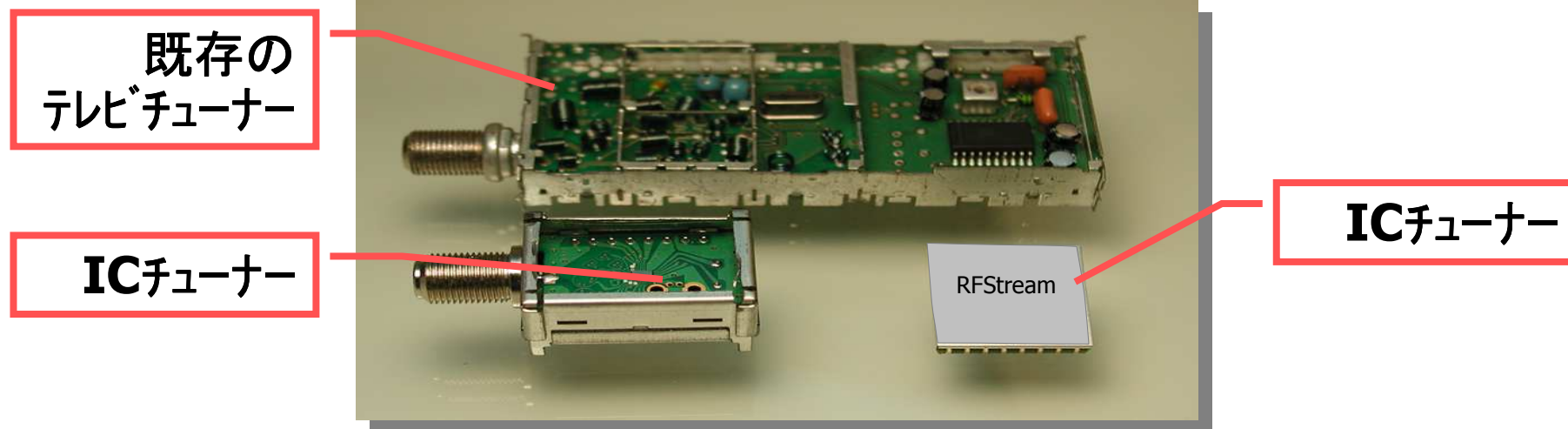
- アナログ波とデジタル波をソフトウェアで切り替え
- 省スペース、省電力化

◆IC化のメリット

- 外部からロジックコントロールが可能
- 国別・地域別対応が容易
- モバイル機器への対応
- コストパフォーマンスの向上

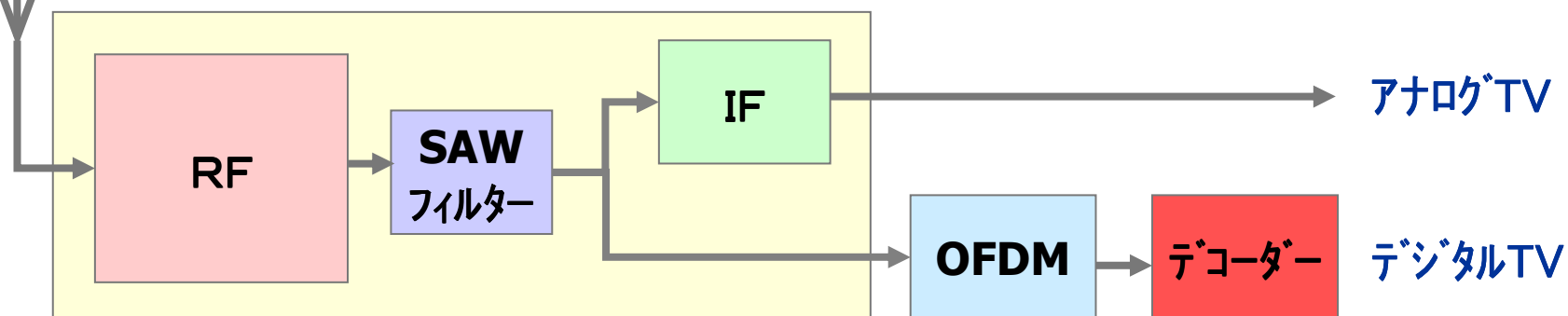


ICチューナーの概要



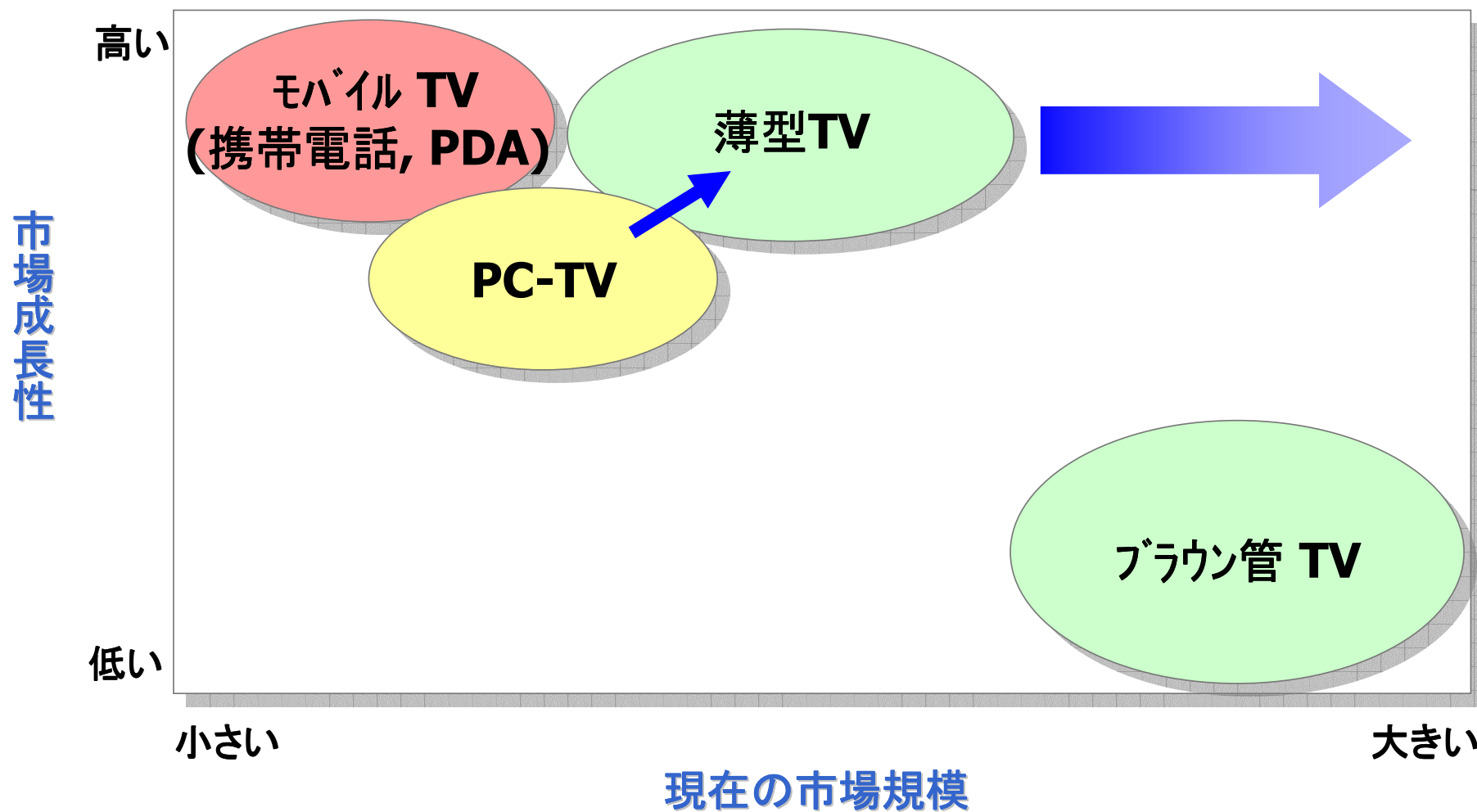
ICチューナーの基本構造

(TW-1000の場合)



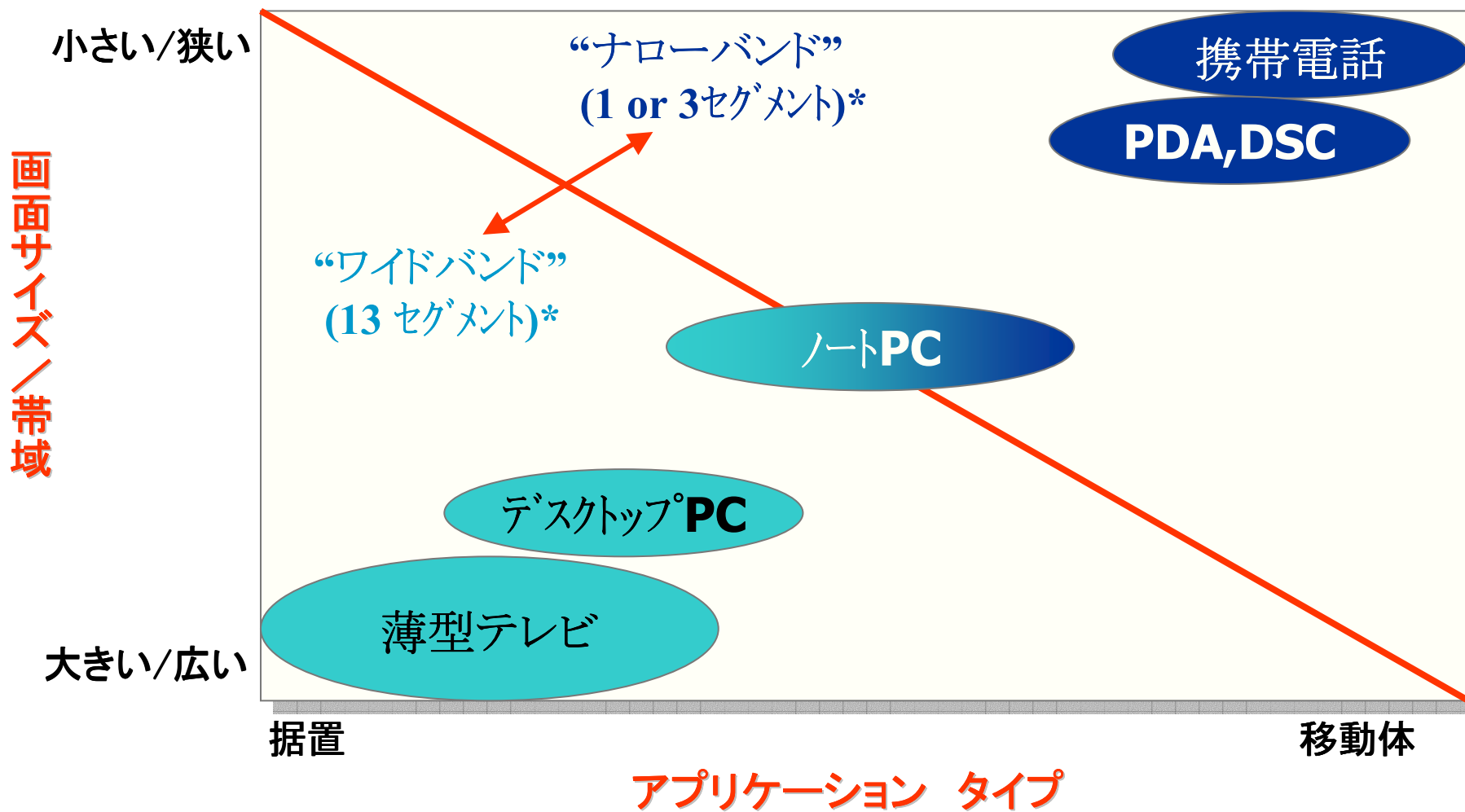


アプリケーション別TVチューナー市場





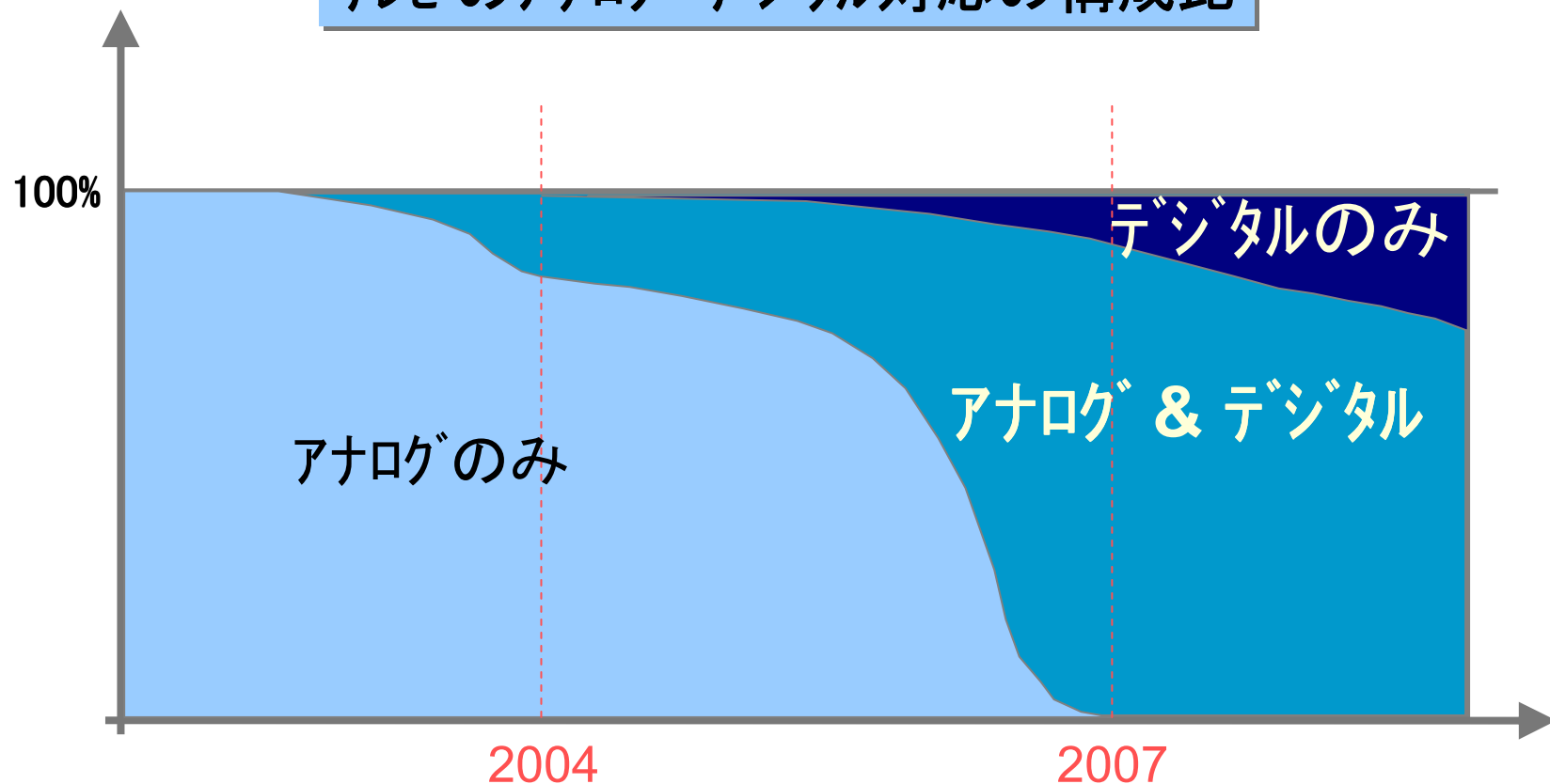
日本におけるデジタル放送





DTV普及シナリオ

テレビのアナログ・デジタル対応の構成比

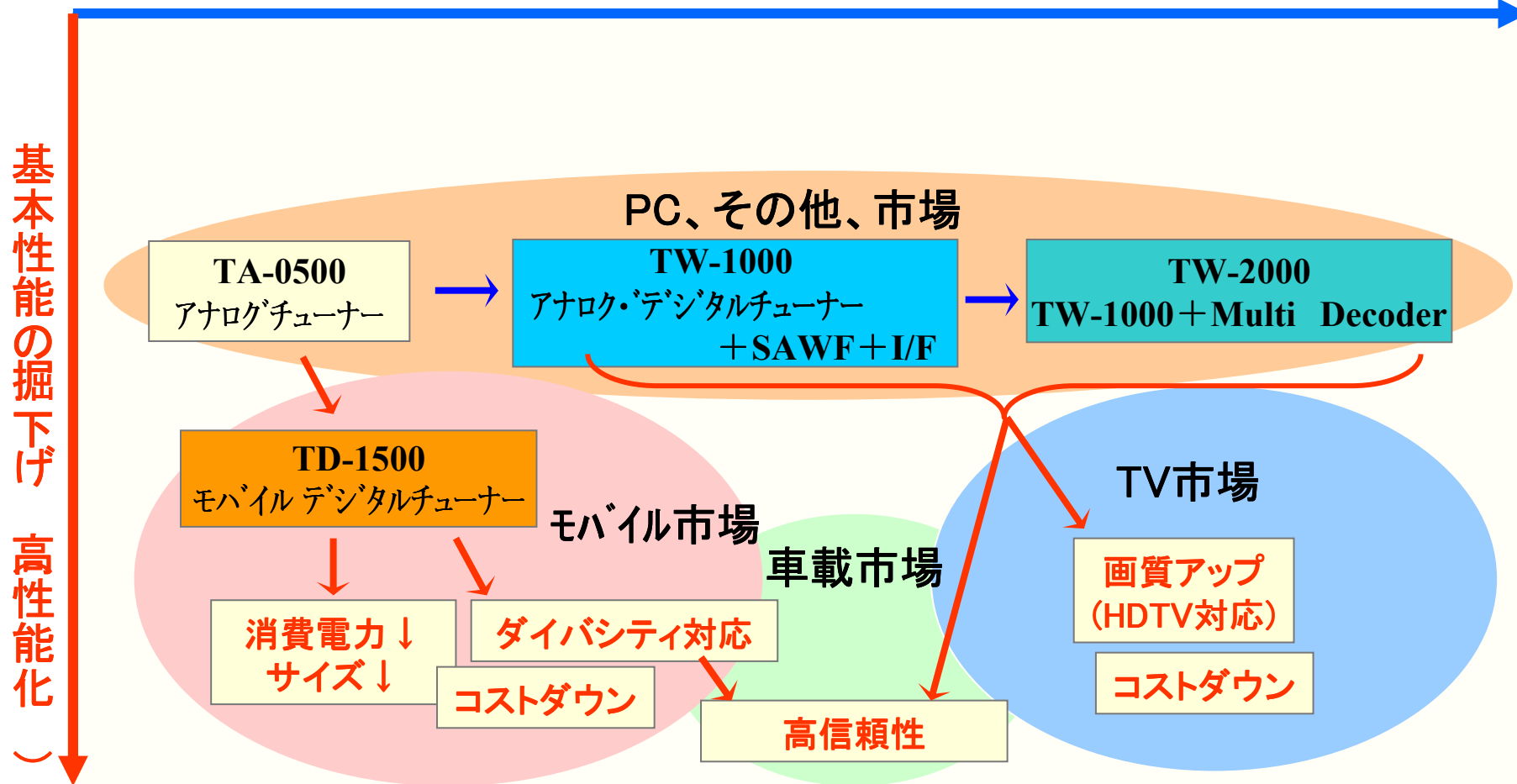


<当社推計>



*Rf Stream*の商品開発の ロードマップ

周辺機能の取り込み（多機能化）





資料取扱上のご注意

- ◆本資料に記載されております当社の将来の業績に関する見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- ◆当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。